〔論文　教育実践の記録　その他〕該当する区分を残す。

タイトルタイトルタイトル

―副題　副題　副題―

著者名：姓と名の間に１字空白（所属）

1.　はじめに

　本文はここから記述してください。

　見出しはMSPゴシック、本文はMS明朝とする。フォントサイズ10.5ポイントとする。ただし，注は8ポイント、表の文字は7ポイントとする。

1.1.　節、項について

　節、項を設ける場合には、適宜以下のように番号をつける。（以下はMS明朝で示されているが、見出しはMSPゴシックにすること）

　　1. …章

　　1.1． …節

　　1.1.1． …項

　　（1） …小項

1.2. ページ設定

　A4サイズ横書き、文字数は1頁あたり40字×37行（1480字）、12枚以内とする。

　ページ余白は上下25㎜、左右30㎜とする（本テンプレートはその設定で調整済）。

2.　注、参考文献について

注及び引用文献は論文末に一括して記載する。実践の記録では、適宜文中に入れる。

注の記述については以下のとおりとする。

　　 ・論文、雑誌，引用……「」、イタリック

　　 ・著書、新聞、引用内の引用……『』、活字体

例

(1) 勝田守一『教育と教育学』岩波書店 1970年7月 107頁

(2) ディートリッヒ・フォン・クヴァイス 別府昭郎訳『ドイツにおける大学教育の構造，諸問題及び改革動向』明治大学国際交流センター 2001年を参照。

(3) 丸山真男『現代政治の思想と行動』未来社 初版1964年5月 13頁。

(4) *Spranger,Eduard：Wandlungen im Wesen der Universitat seit 100 Jahren,1913. S.17。*

(5) コメニウス（*Comenius, Johann Amos*)　鈴木秀雄訳『大教授学』(上)明治図書1962年13頁。

(6) *Deutsch,M., "Equity,Equality,and Need",Journal of Social Issues Vol.Ⅶ，July 1992, PP.137-138*